

九重山の火山活動解説資料（平成 28 年 4 月）

福岡管区気象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、GNSS¹⁾連続観測によると、一部の基線で伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 4 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3-①③）

硫黄山付近では、白色の噴煙が最高で噴気孔上 200m まで上がりました。

・地震や微動の発生状況（図 3-②④）

火山性地震の月回数は 8 回（3 月：1 回）と、少ない状態で経過しました。

火山性微動は 2006 年 10 月以降、観測されていません。



図 1 九重山 噴煙の状況（4 月 30 日、上野遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 5 月分）は平成 28 年 6 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS¹⁾ 連続観測では、坊ガツルー牧ノ戸峠、星生山北山腹ー坊ガツル、星生山北山腹ー直入Aの基線で、2012 年頃から伸びの傾向が認められますが、2016 年 1 月頃から鈍化しています。また、「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の影響ですべての基線に大きな変化が認められています。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

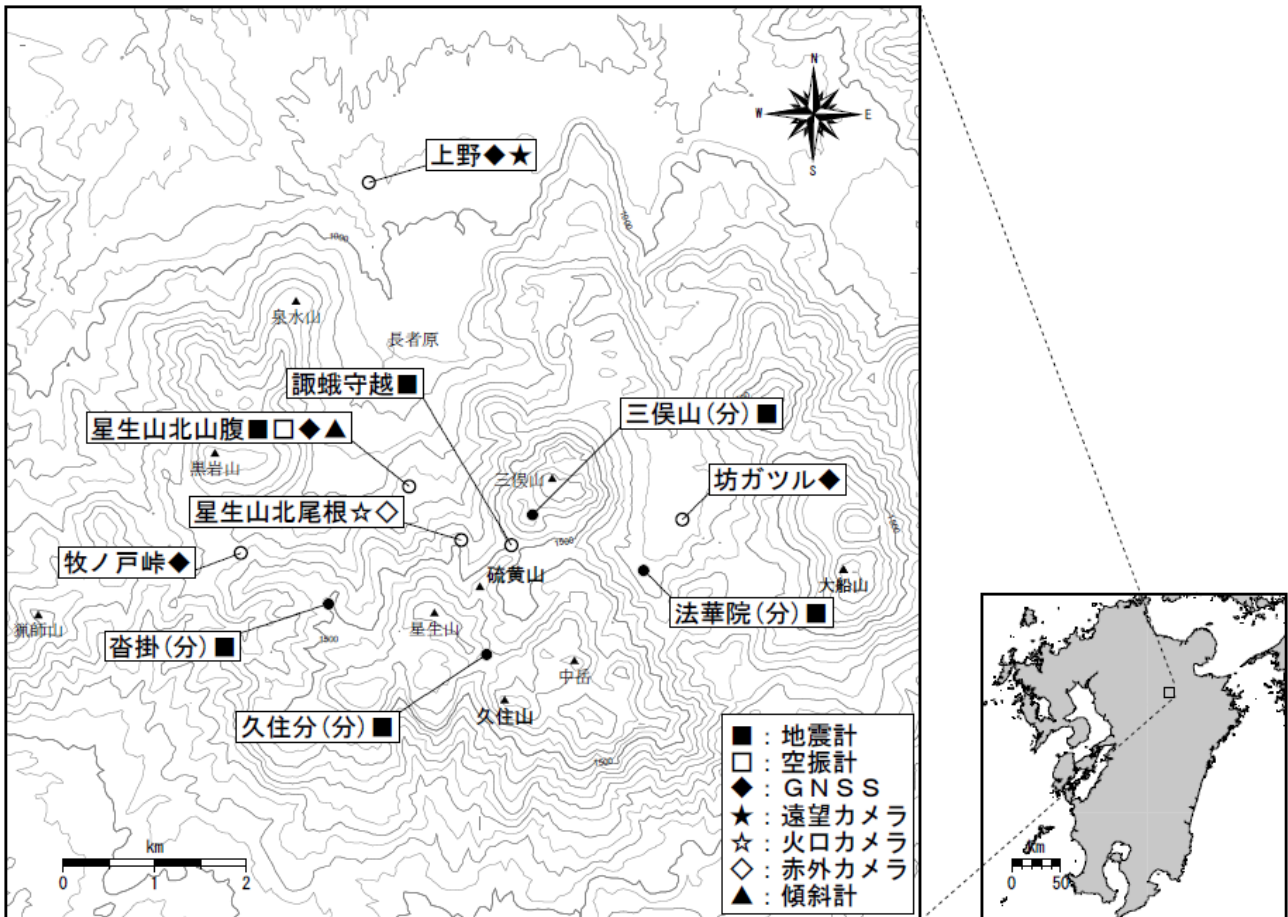


図 2 九重山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(分) : 大分県

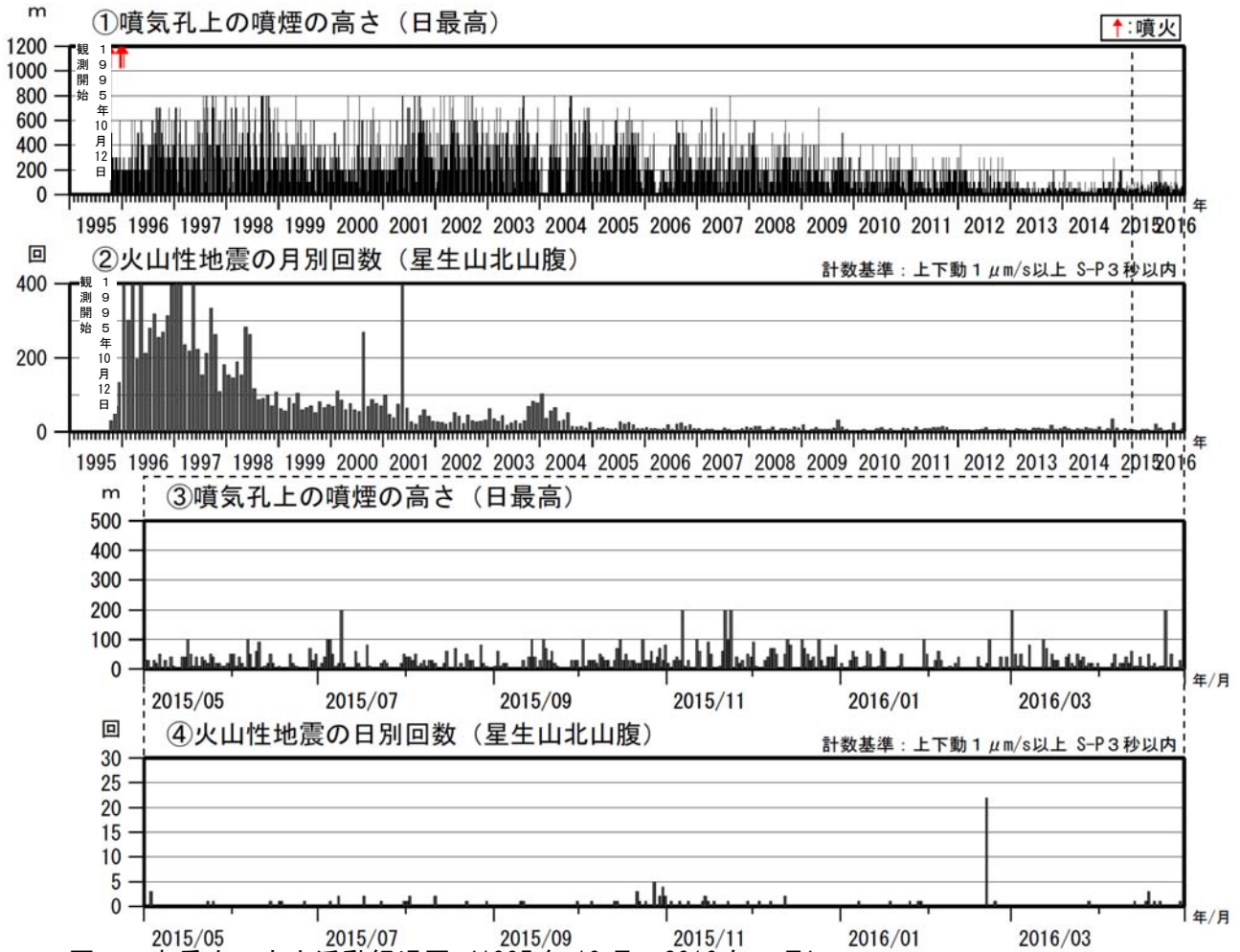


図3 九重山 火山活動経過図（1995年10月～2016年4月）

< 4月の状況 >

- ・硫黄山付近では、白色の噴煙が最高で噴気孔上 200mまで上がりました。
- ・火山性地震の月回数は8回（3月：1回）と、少ない状態で経過しました。

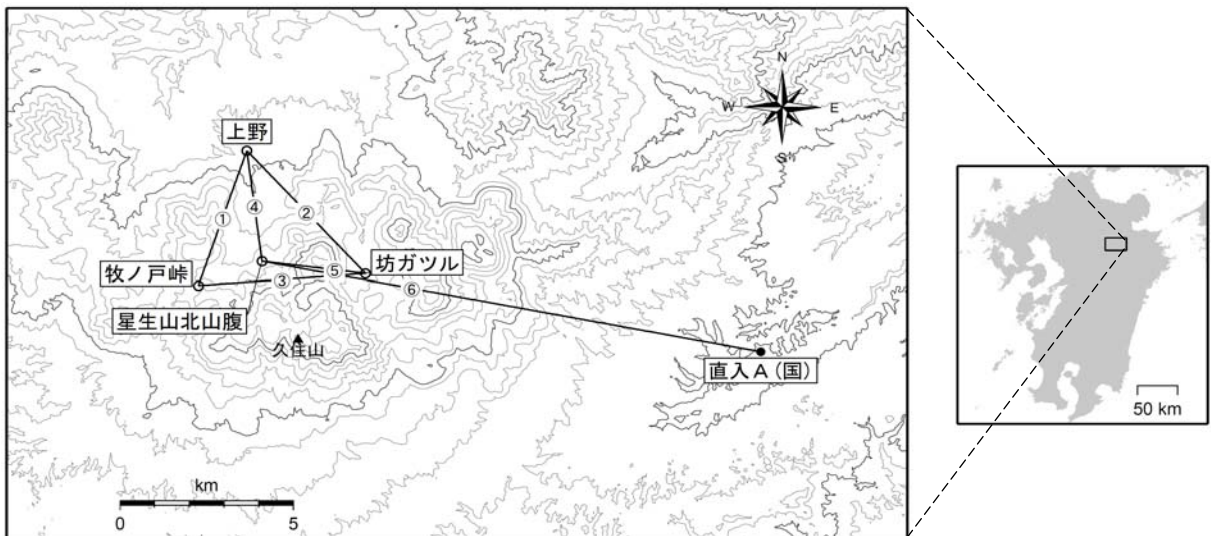


図4 九重山 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国)：国土地理院

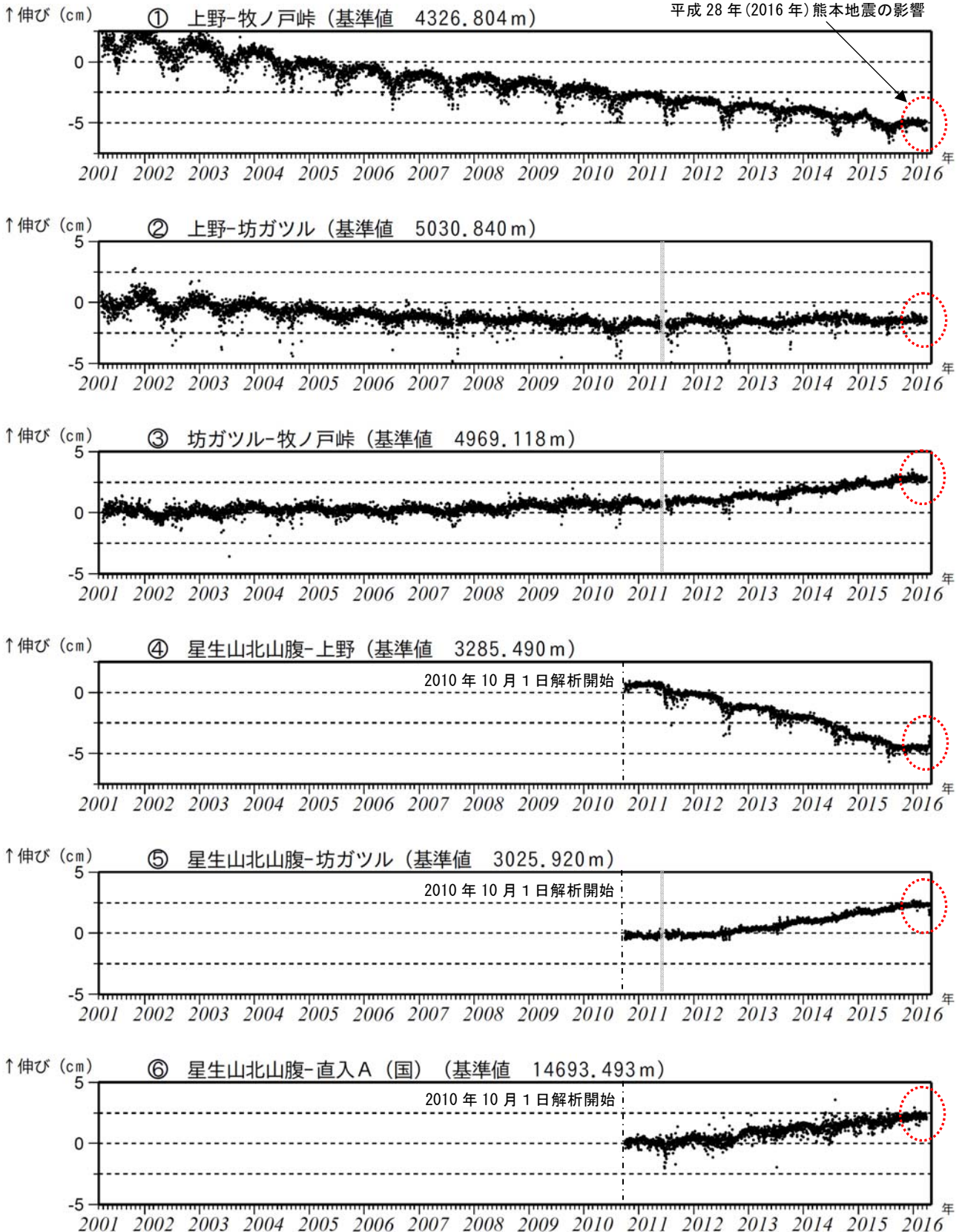


図5 九重山 GNSS 連続観測による基線長変化（2001年3月～2016年4月）

GNSS連続観測では、③坊ガツル-牧ノ戸峠、⑤星生山北山腹-坊ガツル、⑥星生山北山腹-直入Aの基線で、2012年頃から伸びの傾向が認められますが、2016年1月頃から鈍化しています。また、「平成28年（2016年）熊本地震」の影響（赤破線丸）ですべての基線に大きな変化が認められており、一部の基線ではデータがグラフの範囲外となっています。

これらの基線は図4の①～⑥に対応しています。
2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

(国)：国土地理院